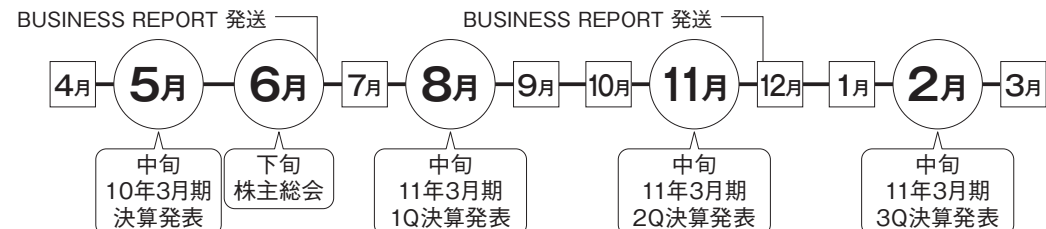


株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
公告の方法	当社のホームページに掲載する http://www.ferrotec.co.jp/
上場証券取引所	株式会社大阪証券取引所 ジャスダック市場

第31期IRスケジュール



FerroTec

株式会社 フェローテック

〒104-0031 東京都中央区京橋1-4-14
TEL 03-3281-8808 FAX 03-3281-8848
URL <http://www.ferrotec.co.jp>



フェローテックは環境方針に基づき環境保全活動を積極的に推進しています。



このマークは株式会社ツバルの森が提供する太陽電池発電によるグリーン電力証書の利用を証するものです。株式会社フェローテックは、本誌の制作（印刷）時に消費する電力担当をグリーン電力証書を利用することで、日本における自然エネルギーの普及促進に貢献しています。



第30期 決算報告

BUSINESS REPORT

平成21年4月1日～平成22年3月31日
証券コード：6890



FerroTec
株式会社 フェローテック



当社の高い技術を多角的に展開。
さらなる事業拡大を目指してまいります。

代表取締役社長 山村 章

磁性流体とサーモジュールからスタートしたフェローテック。半導体やFPD（フラットパネルディスプレイ）の製造装置に用いられる真空シールで世界シェアトップを維持しています。そのフェローテックが、今もっとも力を注いでいるのが太陽電池関連事業。フェローテックはどこに向かおうとしているのか、山村章社長に話を聞きました。

——山村社長は技術畑出身ですが、どのような関係で今の事業と関わりを。

山村 私は、1966年慶応大学工学部を卒業後、米国のノースイースタン大学大学院でサーモジュールの研究を専攻しました。69年、卒業

後はサーモジュールの開発・製造を行うケンブリッジ・サーミオックス社を皮切りに数社にお世話になりました。この間、ハーバードビジネススクールで学ぶ以上の経験を米国での実業をとおして学んだと思っています。1960年代、NASA（米国航空宇宙局）は、アポロ計画の中で無重力

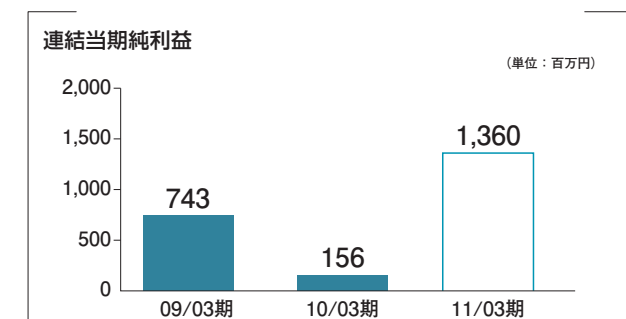
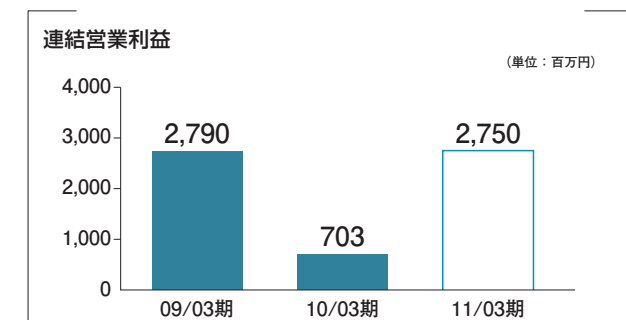
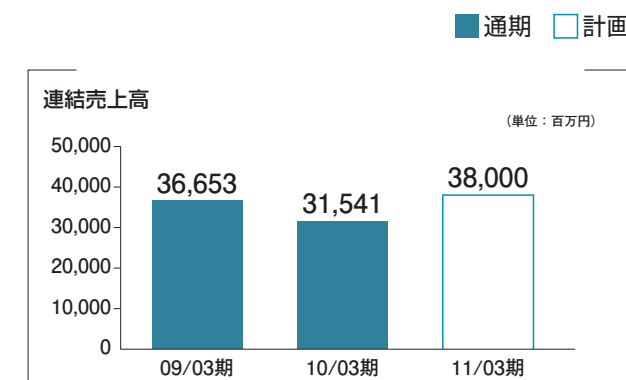
の空間を飛ぶロケットエンジンにポンプなしで液体燃料を送るために磁性流体を考案していました。人間が月面に到着した後、開発に携わった2人がフェローフルイデックス社を立ち上げます。

1979年に私もその会社に参加しました。

——日本法人の責任者として帰国され、その後フェローテックを立ち上げられたそうですね。

山村 磁性流体は、スピーカー装置の熱を逃がして音を滑らかにするというので音響メーカーに広がりました。日本国内でも拡販するため、1980年には私が日本法人の責任者として帰国しました。初めは音響メーカーへの売込みが中心でしたが、しばらくすると半導体の研究機関から真空装置にという話が寄せられ、そのうち半導体製造装置メーカーからも受注が来るようになりました。ゴミを嫌う半導体製造工程では、半導体の品質や歩留まりを高めるために機密性の高い装置が必要とされていました。

仕事が順調に動き始めると面白くなり、国内工場を立ち上げ、1987年には米国の親会社からMBOして独立することになりました。



—JASDAQに上場するのは独立してから10年目のことでしたね。

山村 1992年に中国に進出し、サーモモジュールなど汎用品は中国工場に移管しましたが、事業を拡大するとなると事業資金が必要になります。そこで1996年に店頭公開（現JASDAQ）に株式を公開します。その後、投資家の皆様の応援を得て、1999年には元の親会社も友好的に買収しました。おかげでビジネスをグローバルに展開することができました。

—フェローテックといえば、太陽電池用シリコン結晶製造装置ですが、このビジネスに参入した理由をお聞かせください。

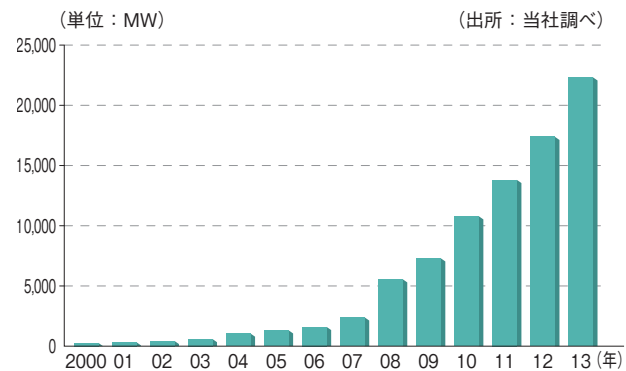
山村 環境問題への高まりとともに当社にも太陽電池の基板となるシリコンインゴットの単結晶引上装置を作って欲しいという話を頂きました。当社は80年代初頭、半導体用の単結晶引上装置の販売、メンテナンスをしていた実績があり、短期間に中国で量産化をす

ることができました。単結晶引上装置には、自社製品の真空シールが使われます。真空シールは、半導体業界で信頼され世界シェアで約7割を誇る当社のコア技術の製品です。他社との差別化はこの真空シールのおかげです。

—太陽電池関連事業に今後も経営資源を投下するのですか。

山村 各国政府の補助金政策もあり、再生可能エネルギーを利用する太陽電池の普及はこれからいよいよ本番を迎えると思います。

太陽電池産業の市場規模予測



2009年、全世界の設置量が7.3ギガワットと順調に拡大しており、欧州企業や日本企業から太陽電池セルのOEM生産が中国で急増し、当社はシリコン単結晶引上装置とシリコン多結晶製造装置、石英るつぼを販売しています。また、グリーンニューディール政策を掲げる米国市場の動きに対応するため、オレゴン州で石英るつぼの生産工場を稼働させる計画です。結晶製造装置のほか、周辺装置、検査機器、消耗品を順次手がけていきたいと思っています。

—山村社長の頭の中にはビジネスの新しいシーズがいっぱいのようなようです。

山村 CO₂削減の声が高まる中、電力消費量が少ないLED（発光ダイオード）の普及はさらに高まるでしょう。LEDを製造する製造装置への当社製品の拡販も有望です。

また、当社の米国子会社が先ごろLED用途などに用いられる電子ビーム蒸着システムを持つ英国企業の事業部門を譲り受けました。新たな事業の柱になることでしょう。



これからの将来を考えると「環境」「食糧」「水」「医療」など地球規模のテーマを無視することはできません。限られた資源やエネルギーを有効に活用しつつ、人々に平穏な暮らしを実現するため、当社グループもあらゆる可能性を探り、さらなる事業の拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社事業の発展にご期待ください。

太陽電池関連事業を拡大、新たな中核事業へ。

■ 太陽電池事業への注力

中国に製造拠点を構え、太陽電池用シリコン結晶製造装置や消耗品の石英るつぼ等の生産を増強してまいりました。

今後も主力のシリコン結晶製造装置のほか、周辺装置、検査機器を順次ラインナップに加え、大きな成長が見込める太陽電池産業に経営資源の集中を継続いたします。また、中国子会社を販売拠点とし、中国市場へ製品供給の拡大を進めてまいります。

<主な注力ポイント>

- ・各メーカーと連携、各種装置・周辺装置の開発・販売
- ・オペレーター教育・プロセス指導までトータルソリューションを展開
- ・多結晶インゴット事業、多結晶用角槽事業の拡充



さらにLED関連分野への積極的な参入をしていきます。

■ LED関連分野への注力

LEDは「発光ダイオード」と呼ばれる半導体のこと。ノートパソコンや薄型テレビの液晶ディスプレイにバックライトとして、家庭やオフィスにおける照明用途として、その市場は急拡大しています。

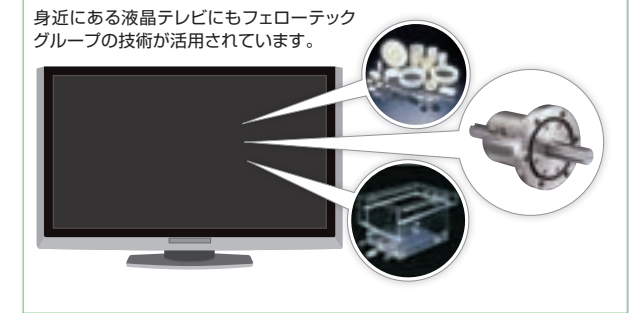
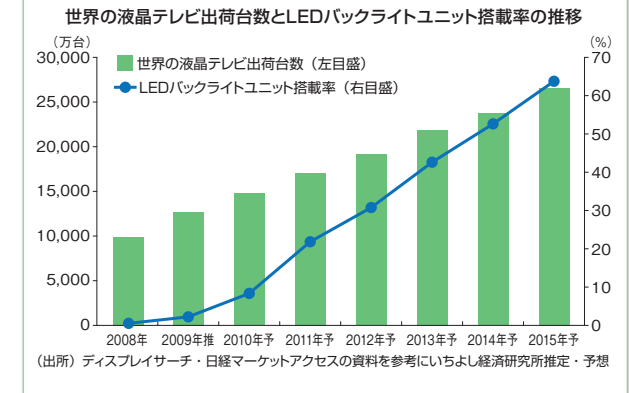
このLEDを製造するMOCVD（※）装置には、当社の真空シール、製造プロセスにはセラミックス製品、石英製品が使用されています。

<主な注力ポイント>

- ・MOCVD装置向け真空部品等への注力
- ・LED製造プロセスへの石英・セラミックスの拡販
- ・LEDの熱対策用サーモモジュールの拡販

※MOCVDとは？

MOCVD (Metal Organic Chemical Vapor Deposition) は、日本語で有機金属気相成長と言い、MOCVD法でLEDを製造する装置がMOCVD装置です。LEDを製造するためには、原料となるガスを送り込み、基盤の上にいくつもの層を成長させる必要があります。原料となるガスには毒性の強い特殊高圧ガスも利用されるため安全設計が極めて重要です。フェローテックの真空装置等が大切な役割を担っています。



今期のニュース

真空シールなど一体化した制御装置部品を開発

新製品「FerroDrive (フェロードライブ)」は、真空装置内で半導体ウェーハなどを回転させながら目的の位置に搬送する回転導入機です。モーターと真空シールの回転軸を直交させたことで一体型部品の設置スペースをさらに縮小し、製造装置全体の小型化も可能になります。半導体や液晶パネルの製造にとどまらず、真空装置内での精密搬送作業が必要な全世界の装置メーカーが販売の対象となります。



LED関連製品を強化いたしました

米国連結子会社Ferrotec (USA) Corporation が、10年1月に英国のEdwards Vacuum Inc.からTemescal事業部 (Temescal: 真空蒸着装置関連事業) を譲受しました。化合物半導体デバイスであるLED市場の拡大が著しいことから、これまで販売してきたMOCVD装置に使用される真空シール、製造プロセスに使用されるセラミックス製品、石英製品に加え、サファイア基板等に金属や酸化物を成膜するTemescalの真空蒸着装置や関連製品を品揃えし、LED市場の拡大に伴い主力事業へ成長させたいと考えております。



セグメント情報

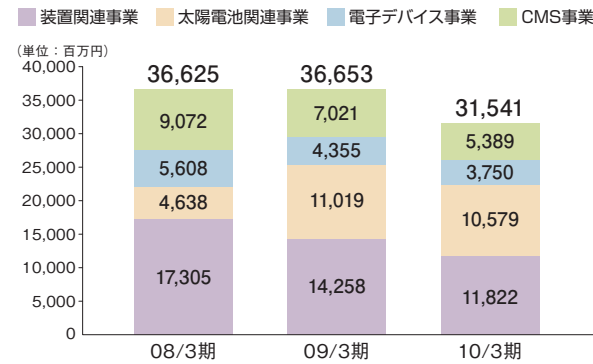
装置関連事業の主な製品は、真空シール、石英製品、セラミックス製品などです。

太陽電池関連事業の主な製品は、シリコン（単・多）結晶製造装置、石英るつぼ、太陽電池用シリコン製品などです。

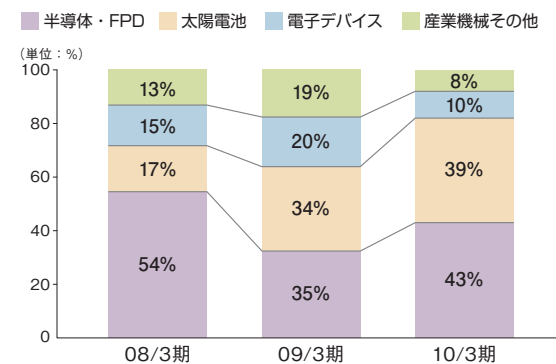
電子デバイス事業の主な製品は、サーモモジュール、磁性流体などです。

CMS事業（受託製造）の主な製品は、シリコンCMS及び各種CMS製品です。

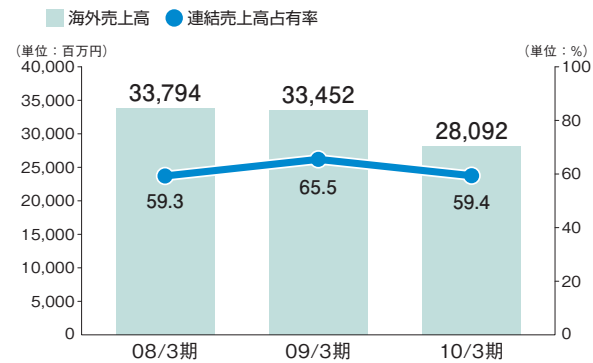
事業別売上高の推移



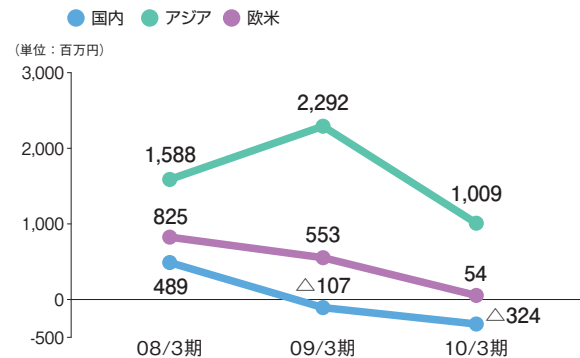
産業別売上高構成比の推移



海外売上高の推移と連結売上高占有率

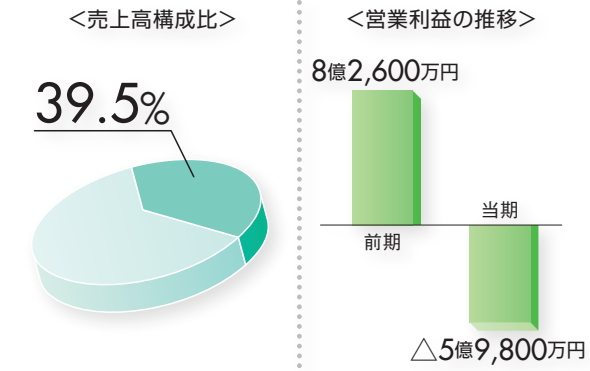


地域別営業利益の推移



セグメント別事業概況

装置関連事業



売上高 **129億8,600万円**

※売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおります。

営業損失 **5億9,800万円**

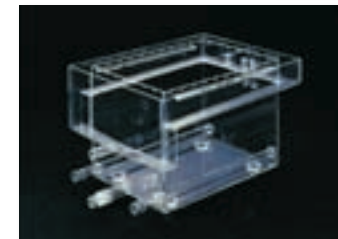
当事業の売上高は前期の実績を下回りましたが、台湾、韓国での製造装置稼働率の急回復を背景に半導体・液晶関連の設備投資が再開されたことに加え、欧米市場でのLED製造装置向けの需要もあり、真空シー



真空シール



セラミックス製品

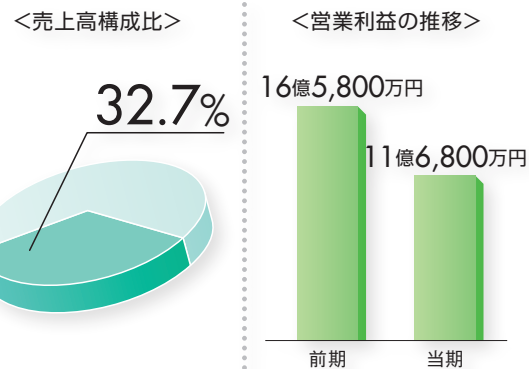


石英製品

ルの売上が回復傾向にあります。

また、デバイスメーカーの生産調整の終了により、石英製品、セラミックスなど製造プロセスに使用する消耗品の需要も回復に転じています。

太陽電池関連事業



売上高 **107億3,800万円**
※売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおります。

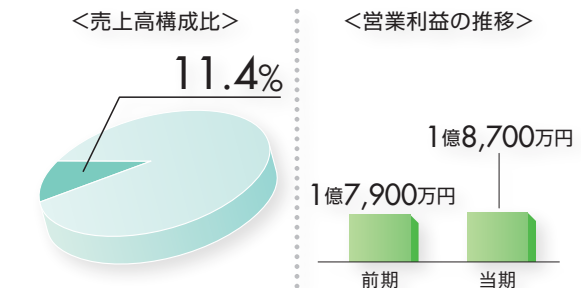
営業利益 **11億6,800万円**

石英るつぼの販売が堅調に推移しましたが、シリコン結晶製造装置及び急激な価格下落の影響を受けたシリコン製品の落ち込みをカバーすることができず、当事業の売上高は前期の実績を下回りました。しかしながら、シリコン



結晶製造装置につきましては、昨年末に大口需要家からの受注が入る等、引き合い及び受注が増加傾向にあります。

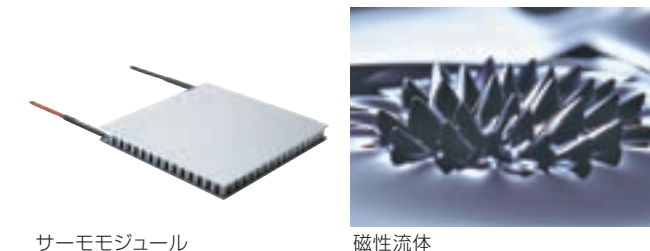
電子デバイス事業



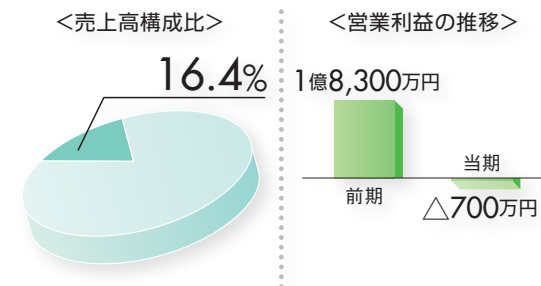
売上高 **37億5,000万円**
※売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおります。

営業利益 **1億8,700万円**

当事業の売上高は前期の実績を下回りましたが、主力の自動車温調シート向けサーモモジュールが各国での景気刺激策や中国市場等での自動車販売台数増により年央に下げ止まったほか、空気清浄機やエアコンなどの民生市場やバイオ市場でも徐々に受注が回復傾向にあります。



CMS事業



売上高 **53億9,000万円**
※売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおります。

営業損失 **700万円**

当事業は、受託契約による他社製品を製造する事業ですが、顧客との守秘義務契約に伴う制約から詳細な記載は控えています。シリコンウェーハ加工、装置部品洗浄及び工作機械製造が最終需要家の購入抑制や生産調整の影響を受けて、売上高は前期の実績を下回りました。



連結財務データ（要約）

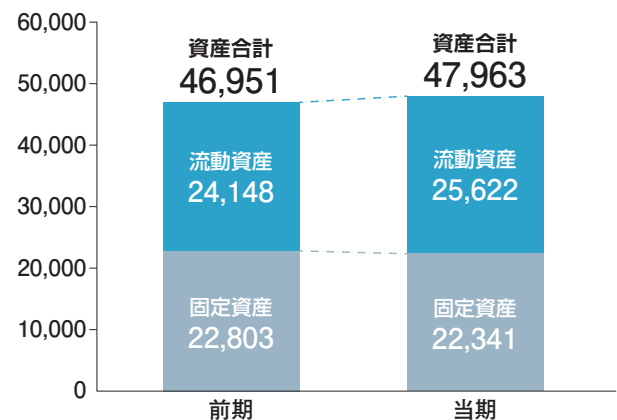
詳しい財務データは
<http://www.ferrotec.co.jp/ir/>

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科 目	当期	前期
	平成22年3月31日現在	平成21年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	25,622	24,148
固定資産	22,341	22,803
有形固定資産	16,943	17,274
無形固定資産	2,928	3,425
投資その他の資産	2,469	2,103
資産合計	47,963	46,951
【負債の部】		
流動負債	19,239	21,034
固定負債	6,142	6,883
負債合計	25,382	27,917
【純資産の部】		
株主資本	22,976	19,907
評価・換算差額等	△846	△1,324
少数株主持分	451	451
純資産合計	22,581	19,034
負債純資産合計	47,963	46,951

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

資産の推移 (単位:百万円)

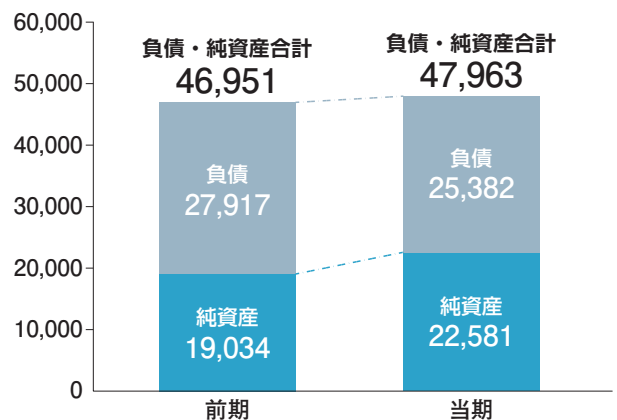


連結損益計算書 (単位:百万円)

科 目	当期	前期
	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで
売上高	31,541	36,653
売上原価	22,987	25,357
売上総利益	8,553	11,295
販売費及び一般管理費	7,850	8,505
営業利益	703	2,790
営業外収益	403	396
営業外費用	582	1,090
経常利益	524	2,097
特別利益	119	234
特別損失	381	662
税金等調整前当期純利益	261	1,669
法人税、住民税及び事業税	177	807
法人税等調整額	△100	98
少数株主利益	28	19
当期純利益	156	743

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

負債・純資産の推移 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	当期	前期
	平成21年4月1日から平成22年3月31日まで	平成20年4月1日から平成21年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,374	2,699
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,521	△8,692
財務活動によるキャッシュ・フロー	△459	6,686
現金及び現金同等物に係る換算差額	63	△743
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	457	△51
現金及び現金同等物の期首残高	5,410	5,461
現金及び現金同等物の期末残高	5,867	5,410

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (平成21年4月1日から平成22年3月31日まで) (単位:百万円)

	株主資本				評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定			評価・換算差額等合計
平成21年3月31日残高	7,547	8,149	4,296	△86	19,907	△68	△1,256	△1,324	451	19,034
連結会計年度中の変動額										
新株の発行	1,586	1,586			3,173					3,173
剰余金の配当			△260		△260					△260
当期純利益			156		156					156
その他			△0		△0					△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						283	194	477	0	478
連結会計年度中の変動額合計	1,586	1,586	△104	—	3,068	283	194	477	0	3,547
平成22年3月31日残高	9,134	9,736	4,192	△86	22,976	215	△1,061	△846	451	22,581

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

ポイント1

負債は、前連結会計年度末と比べ、2,535百万円減少し、25,382百万円となりました。これは主に、長期借入金金の減少によるものです。
 純資産は、前連結会計年度末と比べ、3,547百万円増加し22,581百万円となりました。これは主に、新株予約権の権利行使により株主資本が増加したためです。

ポイント2

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ457百万円増加し、当連結会計年度末には5,867百万円となりました。
 (営業活動によるキャッシュ・フロー)
 税金等調整前当期純利益261百万円(前連結会計年度比1,407百万円減)に、減価償却費等の資金を伴わない費用を加え、法人税等の支払額が減少したこと等により、営業活動の結果得られた資金は2,374百万円(前連結会計年度比325百万円減)となりました。
 (投資活動によるキャッシュ・フロー)
 投資活動の結果使用した資金は、1,521百万円(前連結会計年度末比7,171百万円減)となりました。これは主に中国子会社の生産設備投資によるものです。
 (財務活動によるキャッシュ・フロー)
 財務活動の結果使用した資金は459百万円となりました。これは主に長短借入金の返済によるものです。

会社概要

■ 会社概要 (平成22年3月31日現在)

商号 (英文表記)	株式会社フェローテック Ferrotec Corporation
設立	昭和55年9月27日
資本金	91億3,432万9,687円
株式公開	JASDAQ 平成8年10月18日 (証券コード: 6890)
決算期	3月31日
従業員数	145人

■ グローバルネットワーク (平成22年6月24日現在)

国内

株式会社フェローテックシリコン(東京)
株式会社フェローテックセラミックス(東京)
アリオントック株式会社(山形)

海外

杭州大和熱磁電子有限公司(中国杭州市)
上海申和熱磁電子有限公司(中国上海市)
上海漢虹精密機械有限公司(中国上海市)
上海漢虹国際貿易有限公司(中国上海市)
香港漢虹新光源裝備集團有限公司(香港)
台湾飛羅得股份有限公司(台湾)
Ferrotec Korea Co., Ltd.(韓国)
Ferrotec Corporation Singapore Pte.Ltd.
Ferrotec(USA) Corporation(アメリカ)
Ferrotec Material Solutions, Inc.(アメリカ)
Ferrotec GmbH(ドイツ)
Ferrotec Ltd.(イギリス)
Ferrotec S.A.(スペイン)
Ferrotec S.R.L.(イタリア)
Ferrotec SARL(フランス)
SCTB NORD(ロシア)

■ 事業所 (平成22年6月24日現在)

本社
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-4-14
関西営業所
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町11-34 第10マイダビル1F
会津事業所
〒965-0102 福島県会津若松市真宮新町北2-53
釜石事業所
〒026-0302 岩手県釜石市片岸町3-35
千葉テクニカルセンター
〒289-2131 千葉県匝瑳市みどり平1-4

■ 役員 (平成22年6月24日現在)

取締役
代表取締役社長 山村 章
取締役 賀 賢漢
取締役 小松 輝寿
取締役 山村 丈
社外取締役 中塚 勝人
社外取締役 吉田 浩二
社外取締役 島田 忠男

監査役
常勤社外監査役 宮田 賢一
社外監査役 井上 朗
社外監査役 片山 茂雄

株式情報

■ 株式の状況 (平成22年3月31日現在)

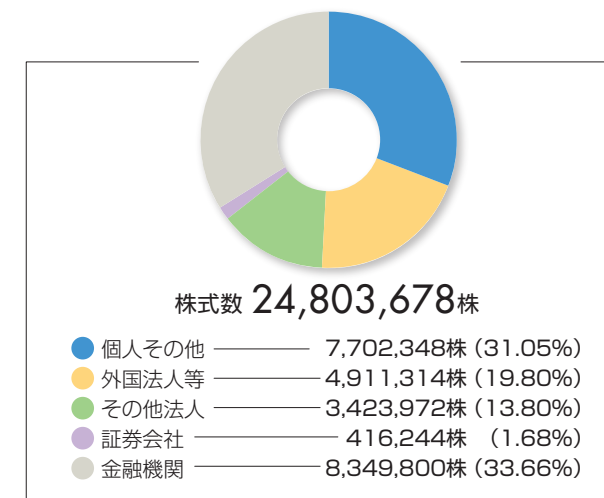
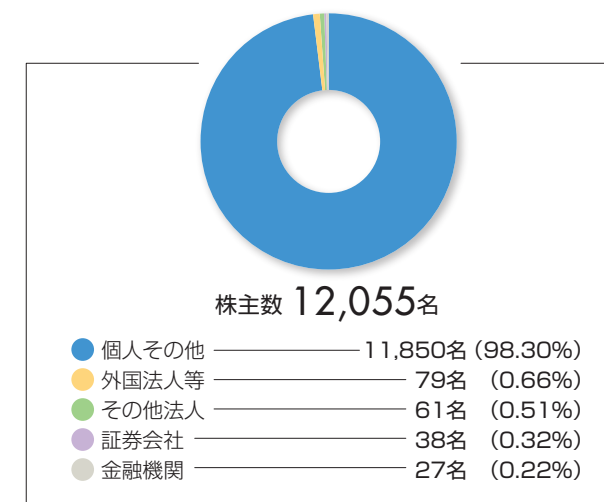
発行可能株式総数	67,000,000株
発行済株式総数	24,897,022株
株主数	12,056名

■ 大株主 (平成22年3月31日現在)

	株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
1	日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	3,557,100	14.34
2	株式会社小松製作所	1,820,000	7.34
3	日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,491,000	6.01
4	株式会社クボタ	1,200,000	4.84
5	THE CHASE MANHATTAN BANK,N.A LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	924,966	3.73
6	山村 章	805,900	3.25
7	NCT信託銀行株式会社(投信口)	726,900	2.93
8	株式会社三菱東京UFJ銀行	420,000	1.69
9	住友信託銀行株式会社	400,000	1.61
10	THE BANK OF NEW YORK EUROPE LIMITED 131800	360,200	1.45

※ 当社の自己株式93,344株を除いた比率で表示しています。

■ 所有者別株式分布状況



(注) 自己株式93,344株は上記の円グラフ中の株主数・株式数に含まれていません。